

一般教育の英語(2) : アクション・ログによる内省的な学習

高橋 守

1. はじめに

学習スキル、Global Awareness および CBI についての考察が、今回検討すべき課題である。この課題は、言い方を変えれば授業に適した教材のコンテンツ作りに関係した教師の側からの問題であり、今後も継続的に取り組むべき課題であることに変わりはない。しかし今回は趣向を変えて、教える内容をどのようにするかではなく、どのような角度から学生の考えていることに接近できるかについて、考察を行いたい。コンテンツとして何を教えたらよいのかという問いから、どのようにすれば学生の考えていることに近づけるのかという問いへと、筆者の関心が移動したのは次のような経緯によるものである。

どのような教材を作ればよいのかということについて考察していた時に、筆者は授業を改善するための方法として、教員が自分の授業を内省的に捉え直すアプローチがあることを Richards & Lockhart (1996) を通して知った。そして教員自身が授業を振り返るのに用いられる方法の中には、学生達にも学習を振り返る機会を持たせることができるものが含まれていることが分かった。学生に学習を振り返らせながら、教員が学生の考えていることを随時把握するならば、英語学習の効果的な指導に結びつくはずである。Stephenson (2006) は、そのような明示的に振り返りをさせる指導を行った記録である。それによれば、振り返り (reflection) とは (1)学生が自分の行っている事を理解していること (2)学生自身がなぜそれを行っているの

か理解していること (3)学生自身がどのように学んでいるのかを理解していることであり、振り返りが学習において本質的であることが示唆されている。教員が教えたいことを、学生が主体的に学ぶようになるためには、学生が自分の学習に責任を持ち、学んでいることを常に振り返る機会を作らなければならないであろう。だが、どのようにしたら教員が教えたい事柄と学生が期待している事柄とを、調和させることができるだろうか。Richards & Lockhart (1996) によれば、調和を可能にするためには、教員が教えたい事柄の根底にあるものを明示的に学生に説明するか、学生が期待している事柄へと教員が授業を近づける必要がある。本稿は、学生が期待している事柄を、アクション・ログを使って教員の側から把握することを試みた記録である。

2. 内省的な学習方法の背景と周辺

Brumfit (1991) によると、現在のコミュニケーション型授業においては、教員が学習者の発言をコントロールすることや、ペアおよびグループワークで話されていることを全て知ることは、不可能である。もしも学生が教員の教えることを学ばないならば、教員が次にできる最善の策は、教員が学生の学ぶ中味を把握することである。これを達成するには、アクション・ログという強力な方法がある。

Murphey (1993) によれば、学生にとってのアクション・ログの利点は、次のようなものである。1. 授業内で起る事柄への反応を記述

するので、学生が授業をもっと集中して聞くようになる。2. ログを記入する時に学習内容を復習することになるので、記憶を増すことにつながる。3. 授業で行った活動を意識的に評価するので、学習過程に気をつけるようになる。4. 授業に対するフィードバックを行うので、教える側へのインパクトを持つことができ、それによって授業に参加している気持ちを高めることができる。また教員にとっての利点は、次のようなものである。1. 何が役立つか、何が難しいかについての学生の反応を知ることができる。2. 教員が重要であると考えた事柄に対して、学生が重要であると思わない場合があることを知ることができる。3. 学生を持つ多様な希望、質問、興味などを知ることができる。直接話すよりも、書いたものを見てそれに応えることで、個別にフィードバックできる。また学生の情緒的な変化も把握できる。4. 活動が有効かどうか知ることができ、適切に調節することができる。前もってどの活動が有効かどうか知ることができるので、計画したことが成功するかどうか不安に思う必要がなくなる。

英語教育においては、英語の4技能を最大限に向上させるということが、長期的な目標である。近年この目標を達成するために試されている試みが、自律的学習 (Autonomous Learning) である。自律的学習が目標とするのは、学習者が最大限自律的に学習することである。自律的学習の定義及び歴史的背景は、Benson (2001) により詳しく知ることができるが、自律的学習は、本稿で言う内省的学習 (Reflective Learning) よりも幅のある概念である。自律的学習は、伝統的な教育方法では解決が難しかった動機付け等の学習上の諸問題を解決する可能性を有している。

同じく自律的学習に関するScharle & Szabó (2000) は、自律的に学習するようになるまでのプロセスを3段階に分けている。(1)気付きをうながす段階：学習者に新しい視点を提供する。内的な学習プロセスを意識的な思考のレベルにまで高めるように促す。(2)態度を変えるために、前段階で気付いた技能を練習に移す段階：学習者自身の新しい役割と習慣を練習させ、習得させる。(3)教師の役割を学習者へ転移さ

せる段階：学習者が最終的に自分の学習に対して責任を持つ段階。これらの3段階に基づいて、Scharle & Szabó は実践的な自律的学習活動を多数紹介しているが、中でも第1段階の中で学習者からのフィードバックを取り入れる手法は、アクション・ログと同様の視点を持っている。

Oxford (1990) も、ジャーナルを用いた、学習者からのフィードバックの手法を紹介しているが、習慣的に学習者が自分の行動を振り返ることが、数ある学習方略の1つとして捉えられているのであり、必ずしも自律的な学習をさせること自体を強調しているわけではない。しかし手法的にはアクション・ログと同じである。

Murphey (2001) によれば、教育者である我々の果たすべき役割は、学習者間の相互作用が、協力的で自主的な学習集団の形成につながるように働きかけることである。Murphey は、自律的な学習集団を形成するための道具として、内省的な道具と微推論的な道具を学習者に使用させた。その結果、学習者自身が言語習得過程を振り返るようになることを、学習者の書いた記録から明らかにしている。内省的な道具とは、アクション・ログとニューズレターであり、微推論的な道具とは、シャドウイングと要約である。

Murphey et al. (2005) では、学習者の考えを引き出す手段として英語学習履歴アンケートが用いられている。この手法により、学習者の長期間にわたる英語学習歴を参考にすることが可能となる。ジャーナルやアクション・ログを補完する手法として、英語学習履歴アンケートは注目に値する。

3. アクション・ログ (Action Log)

アクション・ログのデータは、2006年度第2 Semester にシステム科学技術学部の1年生に開講されている必修科目 CALLII の授業の履修者のうち、1つのクラスの学生が提出したログに基づいている。アクション・ログのサンプル Action Log Instructions (資料として本稿の最後に掲載) を学期の初めに配布し、授業毎に記入をするように指示をした。Action Log instructions は、Dörnyei & Murphy (2003)

の中に紹介されていたものを一部改変して使用した。原則として2週間に1度回収して、教員からのフィードバックを書き入れた上で返却した。書き入れたコメントは全て学習者を励ます内容にした。本稿において資料として質的な分析の対象としたのは、10月から11月上旬にかけての期間のログのうちで重複しているものを削除したものである。

アクション・ログのデータは、アンケート的な資料である。学習者がどのような反応を見ているかの手掛かりを得ることが目的であるので、質的にどのような傾向を見せるかに注目して、まとめを行うことにした。まとめの過程で、学習者のコメントが数種類に分類できる傾向があることが分かってきた。それらの傾向に基づ

き、コメントを1から7の数字に分類し、組み合わせでそれぞれのコメントに貼付けた。そのようにして作成したのが、次に掲げている表である。0という数字に意味はないが、3桁の数字を作るために利用した。1から7の数字は次のような意味を表すこととした。1=学習や授業に対して肯定的な意見、2=学習や授業に対して否定的な意見、3=教科書に関するコメント、4=自分の人生に関するコメント、5=決意、6=教科書以外の教材、7=学習方略 この報告に載せるために、アクション・ログの引用は、明白な語法の誤りがある場合にのみ意味を損なわないように修正を加えたが、そのままにしているものもある。また名前は全て仮名である。

No.	Oct.10 and Oct.12
100	Body language is very important.
100	Conversation was (a) good experience for me.
100	Gremlin is cute.
100	I enjoyed about [sic] conversation.
100	I enjoyed this lesson.
100	I like chant because chant teaches English accent.
100	I like Mr. Bobby's joke.
100	I think today's CD is easy.
100	I understood almost (everything) in this class.
100	I understood some of the points.
100	Today's partner was very friendly man, so I had interesting time.
130	I want to study another country important things (important things of other countries).
200	I dislike choosing (a) pair.
200	I don't understand (know) how to do my homework.
200	I feel busy (in doing) homework.
200	I think that iChat with the classmate whom I don't know is awkward (I felt awkward in using iChat).
200	I was very tired.
200	IChat was very ashamed. (Talking over iChat was embarrassing.)
200	Today's group work was difficult. I didn't answer any question.
210	I can't talk by (in) English, but Jazz chant (was) very interesting.

250	I'm not good at speaking English. So, I tried to like [sic] English.
500	I may prepare for the next class.
500	I want to do well at the next class.
500	I want to study grammar hard.
500	I want to understand a lot of English.
500	I want to use more English (in the) next class.
500	I want to work hard to write more.
500	I'll make efforts to talk (in) English.
500	I'll try as best as I can.
500	I'll try hard.
700	I made a mistake but I am not depressed.

10月上旬のコメントの特徴は、5番の決意が多く見られたことである。学期の始めであり、情意面でまだ充実していることが伺える。また学習に対して積極的に肯定的な意見が多かった。学習に消極的で否定的なコメントとしては、若干「疲れた」とか「話せなかった」という内容

が見られたが、教科書の内容へのコメントはまだ少なかった。また次のコメントは、学生が意識的に学習方略を使用していることを伺わせていて興味深い。“I made a mistake but I am not depressed.” (Student's name: Kid)

No.	Oct.17 and Oct.19
100	I enjoyed this lesson!
100	I enjoyed wathcing video.
100	I think test is very easy. I got high score. Recently I like English. Today's partner is nice guy.
100	I understood some of the points in the reading.
100	I was able to talk without getting tired.
100	I was partnered with Satoshi in iChat. We had fun at the discussion.
100	Today I succeded in speaking English. Describing my mind in English is very difficult but interesting.
120	I think it is good to speak English. At first, my computer a little problem. But I enjoy this class.
120	I was relieved for the conversation with my partner was successful today. Today was very hard because I felt very sluggish.
120	My partner today was Musashi and it was fun to get to know him. Today's listening was difficult, but it was fun.
120	Today, I spoke English so much that I was tired.
123	Today's content of textbook is nice. But I was embarrassed because I had girlfriend.
125	We enjoyed class today. But I didn't know any English word. I need more English study.

130	Natsumatsuri is fun. I used to carry a portable shrine in my childhood.
130	Today I talked about the date with partner. It was interesting because women or men have original sense of value.
130	Today we talked about the kind of things in summer festivals. I think God is pleased with a beautiful legs of women who wore short happi.
130	Today's partner is Kazumi. He is my friend. He likes katsudon. Me, too.
130	Today's partner was Michan. Today's discussion was interesting. She likes jasmin tea but I like lemon tea. Lipton is the most delicious.
150	Today's partner was good at speaking in English. I thinkd [thought] I'd better study English harder.
160	Recently, I like pleasure reading. The story of the book is funny, but sometimes bad thing is sad.
200	I can't speak English.
200	I was tested for CALL, but I was sick with a fever. I kept up under sickness. The result was not good.
200	In class today, I spoke English about 50%. I could not express what I meant in English.
200	New Jazz Chants is difficult. Today's discussion was difficult, too.
200	Today's Jazz Chants is difficult.
200	Today's partner, teacher. No Japanese, so I felt difficult.
200	Today's test was very difficult.
250	I didn't achieve the goal of speaking 50 % in English. I need more effort.
250	Today's small test was difficult. I'll do my best to live up to your expectations.
260	It is very difficult for me to talk only in English. I like lyrics of English songs, but I'm weak in English.
300	I like coffee but today's partner likes tea.
300	I wanted to drink TODDY. There were so many drinks in the world!
300	Photograph shows a lot of drinks! Today's partner KENYA likes CANADA DRY. But I don't like it.
300	We didn't know "the Day of the Dead" and "Saint Lucia's Day". Candy skull is funny.
310	Foreign country's New Year is very interesting. They jump over a bonfire in Iran. I don't want to jump.
310	Today drinks was the topic of Exploring the Topic. I was surprised that cactus was a drink.
310	We listened to CD. Nachi said "Pocari Sweat is good for health". I don't think so. I like green tea. It's good when I study.
350	I thought that I know little foreign culture, and I want to know more.
620	I read a book for 4 pages. This book is interesting. IChat is very embarrassing.
720	I don't have experience, so I used imagination. But I think that has limitation.

10月中旬のコメントの最大の特徴は、教科書や教材を用いた学習に対する肯定的なコメントがとても多くなったことである。学習が進むにつれて、教科書の内容に目が向くようになったことが現れているように思われる。この時期もまだ情意面での充実度に大きな変化はなかったようであるが、小テストや会話をすることが難しいと感じる学生がやや増えてきている。この

時期のユニークなコメントは、教科書以外の本を読んで面白かったという報告である。“I read a book for 4 pages. This book is interesting. IChat is very embarrassing.” (Student's name: Apple) また次のコメントは、学習方略の使用を表していて興味深い。“I don't have experience, so I used imagination. But I think that has limitation.” (Student's name: Kid)

No.	Dec. 2 and Dec.7
100	I enjoyed discussing with today's partner. I was careful about using English.
100	I enjoyed talking with Sachiko. I was surprised that taxi driver is side job in the world.
100	I have finished crossword!! It's very good.
100	I worked hard to speak English. Thank you.
100	In today's listening I did well. I'm very glad and I did well in speaking, too .
100	Today I got a perfect score on the small test. I'm very glad.
100	Today we talked about job. I am working at a convenience store. I get to get new grocery, but I have to be polite even when customers are rude. However, I like my boss. My boss is very interesting and gentle!
100	Today's class was important.
120	Running dictation was interesting, but I was poor in memory.
130	Across culture is interesting.
130	I like traditional kimono.
130	I think tradition is important. This class is interesting.
130	I would like to eat chicken kebab. But I wouldn't like to eat pavlova.
130	Kimono is very good. Woman wearing it is very beautiful.
130	Today's lecture was about looking good, namely attractive. I was surprised that long fingernails was a status symbol.
130	Today's class was very easy. I like drink than food.
160	I read the book TINKERS ISLAND in pleasure reading time. I finished reading this book. It's very interesting story. Today's listening is easy. I hear very well. I enjoyed computer quiz. Today's partner Hanako. I enjoyed iChat time. But iChat is very ashamed [embarrassing]!
160	The video seen in the class was good. I want to make the best use of English in future.
160	Today's game was fun and today's Halloween! Mr. Bobby disguised (himself with) SAMURAI (wig). Nice looking!
200	First, I don't [didn't] understand today's class.
200	I didn't understand some words. I like iChat, but (when) I wear head microphone, I didn't listen Mr. Bobby's voice. Please, this problem reform.
200	I was sleepy.

200	I'm tired.
200	Today's class was difficult. Because Across cultures quiz is difficult to hear.
210	I was sleepy. But sleepiness vanish (ed) for the iChat.
250	I don't understand English speech. I want to hear more well [better].
260	Today's small test was very bad. Let's challenge shadowing!
340	I cooked Oyakodon. It's very easy.
340	I had no part time job. But I want to have a part-time job. I want to get Nintendo DS Lite!
340	I want to work part-time job. But I have no time to work because I take a lot of time to go to university.
340	Today's lecture is about job. I had no part-time job. But I want to make money.
350	I am a lifeguard in a swimming pool. I have to stay awake. Lifeguard is trying to me.
350	I want to have a part-time job.
610	We watched English video. It was difficult, but I think it is very useful.

11月上旬になると「楽しかった」「役に立った」という肯定的なコメントが多く残っていて、増々学習が充実している様子が伺われる。その反面「疲れた」「眠い」という否定的なコメントも出てくるようになった。これらは非言語学習的な理由である。「疲れた」に対処するために、ハロウィーンを題材にして誰でも参加できるゲームを授業に取り入れ、リフレッシュさせることができた。この時期には2つのユニークなコメントが見られた。1つは教科書のトピックに従って自分の生活を英語で描写したコメント Today we talked about job. I am working at a convenience store. I get to get new grocery, but I have to be polite even when customers are rude. However, I like my boss. My boss is very interesting and gentle! (Student's name: HY) もう1つは、授業内での活動を詳しく描写した I read the book TINKERS ISLAND in pleasure reading time. I finished reading this book. It's very interesting story. Today's listening is easy. I hear very well. I enjoyed computer quiz. Today's partner Hanako. I enjoyed iChat time. But iChat is very ashamed [embarrassing]! (Student's name: Apple) である。これらに共通するのは、書き手の積極的な学習態度がよく現れているということである。これらの学生は、自分に対して教員から求めら

れている学習活動を内省的に行うことのできる習慣が、既に身に付いていると思われる。始めのころに比べると学生の書く英文の数も増えてきている。学生たちが自律的学習を始めたことが、この記録から明らかになったのではないだろうか。

始めてみるまでは、アクション・ログを通して何が見えてくるのか分からなかったが、学生との交流を通じて、学生たちの変化をもさることながら、自分自身が変化していることに気づいた。いままでと比較して、人を気遣う心が筆者自身の中に湧き上がってくるのが感じられたのである。継続的に学生に関心を払うことによって、教科を履修するコンピュータのようなものとして学生を見ることから離れて、心を持つ人間として学生を見るようになったのは、新しい発見であった。

4. おわりに

本稿では、学習者が求めているものを教員が知る方法としてのアクション・ログの実践報告を行った。

始めに、なぜCBIなどのコンテンツ作りに関することについてではなく学生が学習を振り返るようになる方法について書くことになったのかについて触れた。コンテンツ作りも大切に

あるが、何かの内容を教え込もうとする教育観からすこし距離をとって、自律的な教育の方法を取り入れることにより、教員は必要に応じて学習者が最も効果的に学習できる方法を選択することができるからである。

2番目に、内省的な学習方法の背景について触れた。コミュニケーションな授業では、学習者の発話の内容まで知ることは不可能であるが、アクション・ログにより教員は学生が何を学んでいるのかを知ることができる。先行研究によって明らかになっているアクション・ログの利点は、書くことにより学生が、授業に注意を払うようになり、内容を復習し、学習過程に気をつけ、授業に参加している気持ちを高めることができるようになる。また教員は、学生の反応を知ることができ、彼らが何に注意を払わないのかを知ることができ、多様な意見も知ることができ、自分の用意した活動が有効かどうか知ることができる、等だった。アクション・ログは、自律的な学習を達成するために近年注目されている手法の1つである。そしてアクション・ログのほかにもジャーナル及び英語学習履歴アンケートのような内省的な道具があることに触れた。

3番目に、本学学生のアクション・ログの中に書かれたコメントについて報告した。学生のコメントは、大別すると情意的に肯定的と否定的なコメントに分かれる。学期の始めは、学習に対する決意が多く見られたが、次第に教科書の内容についてのコメントが多く見られるようになり、興味を持って学習をしていることが伺えた。また学習方略の使用も散見された。否定的なコメントは、非言語学習的なものを多く含んでいた。学生のコメントに「疲れた」が多く見られるようになった時には、誰でも参加できるゲームを授業に取り入れた。

アクション・ログを通して見えてきたのは、筆者自身の人の心の思いへの興味であった。ログを書く際に、学生たちは自分の英語運用力の範囲内で書いているので、おそらく本当に書きたいことを伝えきれていないのではないだろうか、また人に見せる文を書くということで、本心を表すのではなく、無難なことを書いているのではないだろうか、という疑問も残った。し

かし筆者ですら学生全員が書いたコメントを読み進むにつれて、1人1人の心の思いを感じることができたのだから、同年代の学生同士なら尚のこと周囲の人のコメントに関心を払うであろう。学生の考えを知ることがアクション・ログの目的ではあるが、しかしそれ以上に大切なことは、アクション・ログを通じて学生の学習意欲を高めることである。従ってこれから改善すべき点は、ログを学生に公開し、互いの思いを知ることによって刺激を与えあうことであると思われる。教員が学生のログによって彼らの心に興味を持ったように、学生同士でログを見せることも内省的な学習の活性化に貢献すると思われる。当面は紙を使ってニューズレターを発行することで、学生に他の学生の考えを知らせる予定であるが、今後はコンピュータを使ったアクション・ログも行う予定である。2006年度後期にCALL教室のコンピュータ端末の更新をおこなったが、その際にMoodleサーバを新たに導入した。現在は、ハードウェア的なパワー不足のために本格的にMoodleサーバを運用していないが、新年度からはMoodleを活用することによって、紙を使わずに学生と教員がログの受け渡しとニューズレターの公開ができるようになるはずである。

アクション・ログを通じて2番目に見えてきたことは、タスク活動を行う時に教材として扱うべき適当な素材を集める際の基準である。アクション・ログを受け渡しすることは、一種の対人的なコミュニケーションであるが、この活動を通して、教員として学生の内面を知ることの重要性を再認識させられた。そして学生の心に対する関心がきっかけとなって、正直、親切、謙遜のような人格的要素（あるいはこれらを良心と呼んでもよいと思うのだが）の形成に役立つ教材が最も適切な基準であるという感触を得た。今までは使われている英語の難易度を基準にして、筆者はタスク活動のための教材を探してきた。しかしアクション・ログを通して、わずかながらも以前より多く学生とコミュニケーションを重ねた結果、適切な教材というのは、学生の内面に働きかけて学生の良心を養うものであるということを知ることとなった。これからはGlobal AwarenessやCBIを心の涵養と

いう面から捉えて、学生が英語でコミュニケーションを行いながら学生個人の人格を高めることに貢献したいと考えている。英語学習の指導を通して学生たちの良心を作り上げ、責任感を持った個人の育成を行うにはどのようにすれば良いのか、ということが今後の課題として明らかになってきた。つまり Global Awareness や CBI についての継続的な研究に加えて、自律的な学習についての更なる研究が英語教育の更なる発展を促すと考えられるのである。これらについての実践報告は、次回以降に稿を改めて行おうと考えている。

参考文献

Books

- Baily, K.M., & Nunan, D.(eds.) (1996). *Voices from the language classroom* Cambridge: Cambridge University Press
- Benson, P. (2001). *Teaching and researching autonomy in language learning*. Harlow: Pearson Education.
- Dornyei Z., & Murphy, T. (2003). *Group dynamics in the language classroom*. Cambridge: Cambridge University Press
- Murphey, T., Jin C., Li-Chi, C. (2005). Learners' constructions of identities and imagined communities. In P. Benson and D. Nunan (eds.), *Learners' stories* (pp.83-100) Cambridge: Cambridge University Press.
- Nunan, D.,(1995) *Second language teaching & learning*. Boston: Heinle & Heinle
- Oxford, R.L. (1990). *Language learning strategies*. Boston: Heinle & Heinle
- Richards, J.C., & Lockhart, C.(1996). *Reflective teaching in second language classrooms*. Cambridge: Cambridge University Press
- Scharle, A., Szabo, A. (2000). *Learner autonomy*. Cambridge: Cambridge University Press
- Stephenson J. (2006). Critical reflection: Developing teacher and learner autonomy through journals and class newsletters. In E.M. Skier & M. Kohyama (Eds.) *Learner and teacher autonomy in Japan 2: More autonomy you ask!* (pp.185-202) Tokyo: JALT

Vygotsky, L.S. (1978). *Mind in society*. Cambridge: Harvard University Press

Journal Article

- Brumfit, C. 1991. A main speaker interview for the JALT conference 1991. *The Language Teacher*, Sept., pp.3-12.
- Kinginger, C. (2002). Designing the zone of proximal development in US foreign language education. *Applied Linguistics*, 23/2, 240-261.
- Murphey, T.(1993). Why don't teachers learn what learners learn? *English Teaching Forum* 31 (1), 6-10.
- Murphey, T. (2001). Tools of recursion, intermental zones of proximal development, and critical collaborative autonomy. *JALT Journal*, 23(1), 130-150.

単行本

- ゾルタン ドルニェイ. (2005). 『動機づけを高める英語指導ストラテジー35』大修館書店.
- 大学英語教育学会 学習ストラテジー研究会. (2005). 『言語学習と学習ストラテジー自律学習に向けた応用言語学からのアプローチ』リーベル出版.
- 村野井 仁 (2006). 『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店.

資料

Action Log Instructions

Get a A4 or B5 loose leaf. At the beginning of every class write at the top of the page the date, your English target to speak (e.g. 80%) and who your partner is. At the end of the class, write how much English you used (e.g.90%). After every class, as soon as possible (so you remember well what happened), write a short evaluation of the class: (1) List briefly the activities and evaluate them, and (2) write a short comment about what impressed you in that class. Comment on things you liked and could learn from or things you didn't like. Your feedback is needed so that I can teach you better. I read your Action Logs and appreciate your suggestions and will try to use them if possible. You can also take notes in your logs!

Evaluate the activities in three categories, Interesting, Useful, and Difficult, marking the extent of each using the following simple scale:

0=not at all; 1=not much; 2=OK; 3=good; 4=very good; 5=great!

An Example of an entry:

Spetember 14 (written Sept 14, 21:00)
English Target 75% English Used 80% Wow!

Today's partner: Yuki

(1)DID	Interesting	Useful	Difficult
1. listened to a story	4	4	3
2. read a passage	0	1	5
3. discussion	3	3	4
4. teacher lecture	3	4	2
5. had a quiz	2	2	2

(2)Comment:

I didn't understand some of the points in the reading: What is chunking?

Sometimes Mr. Murphy spoke too fast. Please speak slower. My partner today was Yuki and it was fun to get to know her. We got a lot of homework, but it looks like fun. I'm looking forward to the next classes. I'll prepare more for the quizzes.

If you have anything else that you think the teacher should know (which influenced your learning) please write about it. Please remember two things: (a) Always put the date above the entry and the time when you wrote it in parentheses. (b) Always use people's names when you refer to partners. Please submit the Action Logs online at the end of every other week.